



萬正徳雛形全巻

大和徳師 西川祐信圖

并ニ男女流彩紙の整り紋

才一

流彩紙と金文模様

才二

町方の横柄の色紙整り

才三

一切遊女の横柄の流彩紙

才四

風流の浴衣横柄の

才五

地着流と野鳥の横柄

右の才

正月二日分出

八文字屋八方巻

世流曾我 十巻惣目録

付 好色一代流軍人曾我の傍紙子

一之巻

曾我乃先祖是根の根元伊東祐親

二之巻

十郎太郎が母出所。東小次良が実父鬼王園三郎が

三之巻

河津の母系曾我へ改嫁の因縁并ニ大磯乃

四之巻

飯糰坂の少将出所。菊王丸還俗乃有種

五之巻

和國最盛方便の大酒壺。祐経が娘白菊

右之五之巻

正月二日分出

門 遠
號 669
卷 1



明治三十八年 九月十一日 購



御伽曾我 風流東鑑

付 忠孝倭奸二筋の纏のいさめ

六之巻

三浦与市大房丸大磯を傷着五人の筋

七之巻

仁田四郎忠重とわらじ若我兄弟の難儀と終事

八之巻

中田次郎重忠の命とて計略のむねの筋

九之巻

手越の龜菊時宗二云の契約兄弟年未の

十之巻

又び六巻三二 二月期日分中出中ひ是る初合十巻也

當世御伽曾我 一之巻目録

第一 名王河ついでとらと矢へ家世巻れ

付 焼く及へ海つる研屋が思案。瑞乃
付 此中より肉焼く。熱くし服へぬけ
輪持の物よかりし

第二 宇佐美久津美河津合三入性根

付 災がす縁くうらつらつ公事沙汰。
子ゆくと熱くし海のみざれ髪
いつぬき事成服くはけ智恵

第三 珠と白翰の刀已と角新紙巻

圓の寶刀かこめど家老の智恵
付、所張の内張うけつあぬを箱研師
飛へ身くさしたさびか

第四 熱垢換り血汗血て洗ふ新紙巻

毒菜への命を多助ふとくあし巧
付、此此とくく水筋はくぬ改
目よまそ 似やぬ二腰字ぶ六儀侍

第一

石言といひおと矢馬丸

付たり 焼く及へすの研屋があ葉

世も字傳て今よはとれ物語書曲狂言の種とかりて。今此を
かへしあは舊との河津佐とある。我が身は先祖河津とかりて
物よよび兄弟は異祖に大職冠道足とあり十六代の後胤は五
位の下後河津の権守維職は伊豆國の押領使と補せられま子
工友のたまの村よむりて。今佐良久津是河津三ヶ所は地
職と揚りてをよみ有とある人ともあり。一家いらく般般昌
しくもよみ二人ありま見と工友は命社家才は改印社徳と
ぞ中けり熱紙かれば家替のころすち命社家よゆがり。ま身は法
律しく寂蓮と改めらる。御ふ熱紙社家あ死して切あは子孫
ける以家道書賣して河津の改印社親とを名付らる。麻道

七十の御内にて重病と受け。醫術の力をつと。黄泉に去途
よおとむらんとせし。命の内よまきとせんとして。次男祐健并。怒
願孫祐親。を介一家一親を病床よまき。このあつめ。我は夜夢
染乃縁つと。そそ。冥途よむむひく。公のて。汝もそと。病乞
れ。直哉と。一。又。一言との。か。ち。わ。や。と。た。り。よ。ゆ。一。す。す。福。と。こ。を
ぬ。と。一。人。は。の。そ。す。さ。さ。て。の。ち。病。甚。有。痛。の。ち。に。た。を。け
お。こ。され。祐。元。よ。え。を。ま。一。方。夫。一。筋。以。の。て。は。男。は。祐。健。よ。こ
た。ぞ。れ。を。お。て。見。よ。こ。あり。か。ど。に。祐。健。不。害。な。が。う。畏。て。何。れ。難
作。と。た。く。る。か。め。又。病。甚。け。夜。の。夫。以。女。筋。後。して。乞。を。一。交
し。お。り。て。見。よ。こ。お。せ。ら。る。に。祐。健。力。を。入。て。む。ま。も。と。又。よ。お。世
づ。か。れ。れ。は。時。は。病。甚。起。か。を。り。子。を。い。勿。論。一。門。一。家。の。人。く。お。を
乞。を。見。て。一。我。い。事。は。成。す。て。死。後。よ。お。よ。ん。で。と。う。め。と。ど。中。と。く

ま。り。を。さ。く。また。事。あり。一。家。に。誰。れ。一。人。懇。ん。以。は。は。う。事。と
念。て。死。を。な。し。時。に。一。筋。の。夫。れ。と。く。忽。死。に。移。り。う。こ。と。く。せ。い
う。せ。る。事。を。も。一。親。親。兄。身。の。以。同。じ。と。ま。一。味。ら。う。時。に。我。が。く
かり。たる。祐。元。と。い。う。か。う。敵。お。も。て。せ。あ。し。す。と。と。也。大。筋。の。夫。以。は。は
よ。ま。ら。う。こ。と。く。か。ら。ほ。う。と。事。わ。え。う。と。ど。あ。ら。う。ま。て。一。家。を。い
く。ま。り。を。あ。と。べ。一。門。兄。身。中。あ。く。か。り。て。い。り。く。と。あ。ら。な
ら。一。筋。の。夫。れ。た。も。と。く。は。ら。う。と。く。め。ん。げ。の。理。と。も。死。中。人。を
化。成。す。と。い。ふ。若。愚。を。よ。一。家。お。寄。来。に。祐。元。以。わ。た。め。家。を。子
孫。よ。つ。つ。と。と。べ。一。れ。が。家。替。お。借。り。事。橋。子。を。弟。祐。家。よ。ゆ。り
あ。ら。め。事。と。も。我。ち。先。よ。早。せ。ら。ぬ。れ。い。ま。子。祐。親。よ。お。ゆ。つ。つ
が。く。あ。り。在。未。知。雅。よ。て。お。れ。以。は。祐。切。事。め。と。う。と。べ。し。
乞。い。の。て。次。男。祐。健。以。て。怒。然。た。て。三。平。店。を。ゆ。づ。る。条。物。の



一之波種の見氣にへくは侍豆本の式志而の發成取
祐親とへ款よさうて祐親へ本國へぞうれなる。是より祐親はく
威風日しのわのて。吾中ふおふ大若とく。城は舞葉河を均より。
爰に故郷に祐親の時代よんやとくお入せゆ。例らうく氣りては世
伽を結り。刀振指の研師は養徳の又た為りて。一子細わく職人あり
が故祐親へ又物好きて。種は具之持ゆけ。たうへ一皮よ十揚光之
りあられ。それを又奪つよとせられま。ぐ。刀をうをらぐ。乞を感とせ
れゆよ。又奪つ毎日出は。てか。下。け。あ。は。神。よ。あ。つ。う。う。素。子。丸。よ
系とらうて。あ。は。今。の。侍。末。波。命。祐。親。の。う。を。好。ま。て。あ。か。が。ら。又
物よすふれ。ざ。う。ゆ。又。奪。つ。と。ら。ら。う。事。あ。く。今。の。式。日。の。沙。汰。也。也。
彼へあつ事かかれ。細工源のうよ。我威勢とあら。う。う。や。は。い。い。ん。
中に今此祐親と恨も。先代をあひ。い。ま。と。う。れ。百。姓。を。い。か。う。事。を。あ。ら。う。と。

今に所居にへんやとくか入とる人となりて。田代は隣國に海い又
へあ海か。あ。あ。の。内。代。と。い。又。奪。つ。よ。也。一。て。田。代。の。ま。を。た。ら。う。と
けり。か。是。の。亮。竟。一。高。い。と。も。ま。れ。と。中。よ。恨。ひ。今。約。と。田。代
へ。あ。り。し。ふ。田。代。の。事。と。い。ま。か。れ。て。あ。の。ゆ。え。と。う。か。目。に。け。り。ま
や。ま。う。と。う。か。は。あ。ら。う。と。い。ま。は。田。代。の。事。と。い。か。の。ま。う。と。う。と
書をとら。う。ら。ま。る。は。は。は。い。わ。げ。ら。れ。た。恨。よ。理。を。い。あ。ら。う。と。
中。方。と。い。ひ。か。う。う。に。あ。ら。う。と。い。ま。は。理。を。い。あ。ら。う。と。い。ま。は。理。を。い。あ。ら。う。と。
爰。ゆ。い。ま。は。理。を。い。あ。ら。う。と。い。ま。は。理。を。い。あ。ら。う。と。い。ま。は。理。を。い。あ。ら。う。と。
な。西。か。別。か。い。ま。は。理。を。い。あ。ら。う。と。い。ま。は。理。を。い。あ。ら。う。と。い。ま。は。理。を。い。あ。ら。う。と。
よ。か。り。言。葉。あ。ら。う。と。い。ま。は。理。を。い。あ。ら。う。と。い。ま。は。理。を。い。あ。ら。う。と。
物。の。ま。ら。う。と。い。ま。は。理。を。い。あ。ら。う。と。い。ま。は。理。を。い。あ。ら。う。と。い。ま。は。理。を。い。あ。ら。う。と。
氣。を。つ。ら。う。と。い。ま。は。理。を。い。あ。ら。う。と。い。ま。は。理。を。い。あ。ら。う。と。い。ま。は。理。を。い。あ。ら。う。と。

ぞやう。扱つてしつて入つてやと尋ねた。女房のわらつて先ん置改後の
 尚おれねと笑へん。そのことかく御事と仰つて。日はは移んてうらむじ
 わやうぞ。これ耳入る。さういふつとくに入つてわきびとく。男は後持
 けよよわがづらひと出たの。さういふにや。す。所時とく。わく。所治わ
 れ。女房つよとあられて。口上書とあつて。め。云波。何とて。執中の
 此。善。成。つて。余。の。う。と。作。れ。た。さ。う。は。持。東。と。百。て。双。方。と。我
 せうらへ。て。せ。船。停。ま。る。持。東。が。方。へ。右。付。つ。く。祐。親。ひ。ら。と。お。ん。し。て
 一家とわのち。さす。う。く。祐。親。め。が。邪。ま。り。許。す。の。心。今。丸。丸。よ。ら。さ
 ろ。かり。お。れ。祐。親。が。ま。へ。平。家。と。勅。付。て。此。一。門。の。歴。く。よ。不。改。此。ら
 や。と。く。め。され。た。別。際。お。れ。た。ま。は。ま。は。津。を。穿。つ。祐。親。より。負。負。よ
 ち。が。り。す。ん。勿。論。なり。御。時。は。十。分。の。理。わ。り。と。い。え。び。あ。の。裁。許。よ。子。よ
 ひ。その。も。務。ま。り。と。い。は。れ。た。さ。う。と。い。は。れ。た。ま。は。ま。は。津。を。穿。つ。祐。親。が。母。と。た。だ。ら。す。じ。



所を打つる小松友の所へういぬを念ふれがたは涙をむす極せり。我
そして骨髄よとのやそ念ふもなほいそく山男上の敵を合傳
東親子の人なれば彼父子討て宿きとせげらるべし。我は兄弟命と
とつたをいふぞとく祐親を子と母抱くといふこといまだと胸突
し難とていふべ祐親何の事あるや。神は母おぬ人殺すの事て
河津の三郎が事系れ中つけぬといひて討てられぬははなより母と
と何方へといふげしす。とて念ふて祐親と一ち方ううかたあどあ
なる事え。あしわきて祐親は母を母とわたりけり。此は縁生事也
芳しくは花をみて。却の事縁神とつてねて名相とを圓くえは
またとていふ事なきに。時をたれは。長久家。一ちかあやよはるす
そは河津の三郎祐親一人のびて。山男とあやい。油揚げあてとら
く。とていふ。目と西の山男よ入る。とていふ。は真の風系を部とて越て

元之去暮中幕并道とつげ。奥の骨をぐる塔のおよ控し亡
ちゆと精をどくをぬかす。ふちくゆく。山男の石をぶ者
ら。とて男。新ら。とて文。新ら。とて標。しりぬ。あ。とてあ。る。塔。の。あ。よ
と。認。先。人。合。せ。て。志。道。は。風。情。は。棟。根。子。と。わ。る。べ。し。と。て。男。と
遊。け。わ。れ。親。の。い。と。く。徳。の。推。む。と。た。づ。新。ら。と。に。お。を。れ。て。世。事。も。せ。む
遊。し。ゆ。と。い。ふ。と。と。と。て。あ。ら。う。あ。ら。う。事。成。よ。引。込。え。く。責。し。と。子
細。と。い。ふ。河。津。と。い。う。酒。さ。ん。よ。ま。ま。の。あ。や。ま。ら。と。う。り。早。繩
と。り。けて。あ。ら。う。か。ら。座。に。取。け。し。た。の。文。新。ら。と。い。は。海。の。内。小。な。や。家。長
と。い。か。り。て。と。う。く。評。判。は。ら。に。付。あ。の。事。成。人。の。事。と。入。不。成。義。の。食。使。と
し。て。ま。ま。と。波。舟。の。交。動。取。わ。げ。ぬ。ま。ま。教。法。役。人。集。り。て。と。ま。書。わ
か。た。い。ひ。け。し。と。と。ら。ら。に。魚。の。た。の。も。り。傳。り。び。夜。家。成。さ。へ。ゆ。や。と。肝
賣。り。者。な。ら。び。毒。茶。と。あ。く。い。わ。え。給。る。べ。し。け。れ。内。見。わ。と。り。て。及



ゆと事とわけよすれは。二門の公卿をしておて。流よ八木下ゆの未練の
揺わけろ。えわひ流身に付ろ。一板汝がお撲の事わすれく世よ
うろ。あけれ。内と大相まよと。内變免わろ。この内事あま。を目おま
と。得し。仕のて。内目よけよ。その作も。僕神西目せ。ごう。い。あ。と。あ
を私宅よ。ろ。ひ。なる。大難との。れ。殊よ。今日の。内機。ま。あ。つ。ろ
事も。い。え。よ。河津の。二。病。祐。泰。が。彩。り。と。二。病。方。へ。為。り。祐。泰。が
け。なる。厚。情。を。耐。し。い。ま。く。ま。く。く。強。り。河。津。が。今。の。役。よ。と。ま
へ。い。ま。ま。ま。ま。ま。ま。と。感。と。ほ。び。さ。る。と。こ。と。り。り。な。れ

一之巻終



た
い

